

地域の力を結集した地元農産物での新商品開発 (社会福祉法人 琴平町社会福祉協議会)

＜法人の概要＞

所在地：香川県仲多度郡琴平町

設 立：昭和 58 年 3 月

資本金：100 万円(基本金) 売上高：1 億 4 千万円（平成 25 年）
（うち農業関連事業：811 万円）

役 員：12 名（うち農作業従事 2 名）

従業員数：29 名、うち農業従事者 3 名

経営面積：0.58ha 営農作物：ニンニク、米

農業開始時期：平成 22 年 10 月



ニンニクの栽培ほ場



ニンニクの一次加工（片割作業）

＜農業参入に至った経緯・動機＞

県下最大のニンニク産地である琴平町において、県内食品業者と連携しニンニクの加工品開発が検討されていたが、試作段階において一次加工の受け手など体制づくりが問題となっていた。

そこで同町の社会福祉協議会が、障害者の自立支援としてニンニクの一次加工作業を引き受けた。このような活動の流れが農業に取り組むきっかけとなった。

地域の農業委員の協力により、48aの農地を社会福祉協議会が借受け、小規模通所作業所が主体となりニンニク等を栽培し、また小学生と農作業の共同作業による交流を行うなど、農業を通じた自立支援にもつながってきた。

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

ニンニクの生産・加工に障害者が取り組むにあたり、町やＪＡなどの関係機関・団体、農業委員及び近隣農家など地域の協力を得ることができた。

そのため、農地は比較的早期に斡旋を受け確保でき、ニンニクの管理作業についてはＪＡや生産者から指導を受けることができた。

また、生産から加工、製造、販売については、町、ＪＡ、町商工会、普及センターの参画により協議が重ねられ、地域ぐるみで運営体制の整備が図られた。

<営農開始から現在まで>

町、農業委員の配慮により、JAの集出荷場に近い農地を借受けることができた。そのため、通作距離も近く関係者の目が行き届く範囲で安心して農作業を行っている。農作業は、障害者が近隣の生産者の支援のもとで実施しているが、播種などの主要作業は、地元の小学生が作業に参画できるよう企画され、地域住民の交流の場にもなっている。

また、琴平町産ニンニクを使用したガーリックオイルは、地元高校でネーミング、ラベルデザインが施され、「ガアリック娘」の商品名で町内中心に観光と連携して販売するなど、農・商工・福祉・教育・観光業を巻き込んだ商品として琴平町の「町おこし」に一役買う存在となった。

<今後の農業経営の展開方向>

まずは、ニンニクの収量・品質ともに安定した生産が行えるよう技術の習得と生産体制の整備を図る。

「ガアリック娘」の開発以降、地元産ニンニクを使用した新たな加工品が開発されており、生産量をみながら更なるアイテムの創出と販路の検討も行う。

また、このニンニクの生産ほ場を障害者の就労の場としてだけでなく、地域・農業・人を結びつける交流の場として機能させていきたい。

<今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス>

農業生産を維持していくための収益確保は前提となるが、生産活動をさせてもらっている地域との交流促進が図れるよう、働きかけや仕組みづくりを行い、地域に貢献していく姿勢が必要と思われる。



地元高校によるラベルデザイン作り



琴平産ニンニク使用の「ガアリック娘」